

彙報（二〇二四年度）

二〇二四年九月

二名卒業

† 教員関係

二〇二五年三月

三十八名卒業

二〇二四年度新規兼任講師（哲学専攻設置科目）

串田純一兼任講師（担当科目「環境の哲学」）

西條玲奈兼任講師（担当科目「ジェンダーの哲学」）

檜垣立哉兼任講師（担当科目「哲学演習3年B」）

二〇二五年三月

青柳英司兼任講師退職

秋吉亮太兼任講師退職

水野博太兼任講師退職

檜垣立哉兼任講師退職

† 学生関係

二〇二四年四月

第七期として三十七名入学。

† 卒業論文題目一覧

・ミルは「自由の原理」をどのように正当化しているか—J.S.ミル『自由論』の考察—

・ニーチェにおける「神の死」とはなにか—『愉しい学問』³⁴³番と³⁴³番の比較から—

・ハイデガーによるデカルト的世界の存在論批判—『存在と時間』第19節・第20節・第21節の考察—

・退屈の第三形式が最も深い退屈であると言えるのはなぜか—『形而上学の根本諸概念 世界—有限性—孤独』第一部の記述の検討—

・全体主義が生み出す「虚構の世界」はなぜ大衆に受け入れられるのか—ハンナ・アーレント『全体主義の起原』第11章考察—

・自由と主権は相互に排他的か—ハンナ・アーレント『人間の条件』「32 活動の過程的性格」の考察—

- ・革命における偽善への追及は、なぜ平等を生まないのかーハンナ・アーレント『革命について』第二章「社会問題」についての考察ー
- ・思考は共通感覚による実在性を証明できるのかーアーレント『精神の生活へ上第一部 思考』第一章における考察ー
- ・平等の原理は種を超えて適用できるのかーピーター・シンガー『実践の倫理』第3章よりー
- ・判断力のある子どもはいかにして育つのかーM・リップマン『探求の共同体』における「哲学対話」の可能性ー
- ・「探求の共同体」においてどのような思考が求められているかー『探求の共同体 考えるための教室』第四、九章から考えるー
- ・学校教育で教師はどのような意識をもつべきかー学習指導要領の方針とビースタの差異からー
- ・イブン・アラビーにおける完全人間論と禅の比較について
- ・キリスト教における幸いな貧しさ
- ・武士道と自己犠牲の精神
- ・レヴィナスのユダヤ教解釈と哲学的論考はどれほど密接しているのかー「他者」を例として
- ・異邦人に認めるべき権利
- ・イスラーム過激派のテロリズムについての哲学的分析ーハーバーマス、デリダの思想に基づいてー

- ・私たちは菜食主義者になるべきかーシンガー『動物の解放』からの考察ー
- ・社会的マイノリティとのあるべき関係性ープレシアドの思想を抽出するー
- ・女性が抑圧から解放されるためには何が必要か
- ・快楽と善は異なるものなのかープラトン『ゴルギアス』491d-497dー
- ・悲劇の憐れみや怖れを呼び起こす働きはどのようなところから生じてくるのかーアリストテレス『詩学』第13章ー
- ・なぜ実体は分割されないのかースピノザ『エチカ』第一部定理一二ー
- ・スピノザにとって、服従の必要条件としての教義（普遍的信仰の教義）は無縁なのかースピノザ『神学・政治論』第14章
- ・反逆的意見とは何かースピノザ『神学・政治論』第20章第9節ー
- ・ライプニッツはアルノーのデイレンマをどのように解消しようとしたのかーライプニッツ『ライプニッツーアルノー往復書簡』「各人の個体概念はその人物にいつか起こることを一挙に含んでいる」という私の命題にかんする、アルノー氏への手紙の覚書き
- ・ヒュームによる人格の同一性の議論にはどのような矛盾があるかーデイヴィッド・ヒューム『人間本性論』第一巻

第四部第六節―

- ・死は私の可能性なのか―サルトル『存在と無 現象学的存在論の試み』第四部第一章第Ⅱ節E「私の死」―
- ・なぜ人間は全世界に対して責任を負うのか―サルトル『存在と無』現象学的存在論の試み』第四部第一章第Ⅲ節「自由と責任」―
- ・生存の目的をもつロボットだけが「意味」を理解するのか
・戸田山和久『哲学入門』第1章
- ・『莊子』の「斉物論篇」において絶対者は想定できるか
- ・朱子学の諸概念はどのように割股を擁護したのか
- ・法然は菩提心をどう位置付けていたのか―『摧邪輪』からの批判を通じて―
- ・伊藤仁斎の天命観
- ・中江兆民における天命の自由とはなにか
- ・井上円了の哲学にみられるヘーゲルの弁証法について
- ・西田幾多郎の思惟―絶対無の思想とは何か―
- ・「即非の論理」とはなにか―「主体の論理」「作用の論理」としての「即非」―
- ・三木哲学における幸福と存在の関係性について
- ・三木清と和辻哲郎の人間観の比較研究―人間という言葉にある他者との関係性と社会性―

(順不同 卒業論文提出者数と卒業生数は一致しない)

★ シンポジウム・講演会など

二〇二四年四月二日

研究集会「ライナー・シュールマンの哲学―ハイデガーとアナーキーの原理を中心に」

登壇者・宮崎裕助氏、中西淳貴氏、合田正人氏、池田喬氏
明治大学和泉キャンパスリエゾン棟L1教室

二〇二四年六月二十九日

映画上映館&講演会：「Islam, Corbin, Heidegger」

映画上映：Masoud Taheri監督「The Seeker of Orient」

講演者：Ehsan Shariat'i氏「ハイデガー哲学のアンリ・コルバンの読み方」

明治大学和泉キャンパスリエゾン棟3階L9教室

二〇二四年七月十三日

シンポジウム「レヴィナス『存在するとは別の仕方』刊行五〇年、リオータル生誕一〇〇年記念国際シンポジウム・多島海・漂白―別の仕方で」

登壇者・合田正人氏、越門勝彦氏、ティエリー・オケ氏、フランソワ・ダヴィッド・セバー氏、星野太氏、本間邦雄氏、渡名喜庸哲氏（セバー氏は代読）

明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント・グローバルホール

二〇二四年七月十九日

ワークショップ「子どものための哲学(P4C)における認識的不正義」

登壇者…西山溪氏、佐藤邦政氏、池田喬氏

明治大学駿河台キャンパス リバティタワー 一四三教室

二〇二五年三月十四日

ワークショップ「現代哲学としての現象学の可能性…池田喬『ハイデガーと現代現象学』（勁草書房、2024）を通して」（主催…明治大学文学部哲学専攻 Meiji Institute of

Philosophies (MIPs)、共催…メルロ＝ポンティ哲学研究会）

登壇者…佐藤駿氏、丸山文隆氏、田村正資氏、池田喬氏、國領佳樹氏

明治大学和泉キャンパス 第一校舎〇〇七教室

二〇二五年三月二十九日

ワークショップ「Traduire le rythme: Le croisement des philosophies judaïque, islamique, française et japonaise」（リスムを翻訳する…ユダヤ、イスラム、フランス、日本哲学の

交差点）」（主催…明治大学人文科学研究所共同研究「現代フランス語圏哲学と三つの一神教」）

登壇者…合田正人氏、Amir Artaban Sedaghat氏、井上貴恵氏、野元晋氏

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン三〇九C教室